

# 介護福祉教育と保育教育との関連

——卒業生の聞き取り調査を通して——

## Relationships between Care Worker's Education and Childcare Education

—A Survey of Program Graduates—

北 村 光 子

### 要 旨

介護福祉士が専門職として誕生して18年あまりになるが、今後の課題は介護福祉士の質にあるといわれ、その質を上げるためにも介護福祉教育のあり方を考察する時期かと考えられる。その一環として、福祉現場で実施されている統合ケアが参考になると思われる。統合ケアとは、一環境において高齢者と子どもが生活する（ここでは、24時間共にいるというわけではなく対象者の一部分の時間を共有とする）ことを通じて、高齢者にとっては、世代間交流から子どもに文化の継承やしつけを行うという過程で、次第に心を開き自発性がみられ、人の役に立つことで自信や生きがいを見出すという変化があり、日々生活の活性化や快適さに繋がっている。このことは、子どもを媒介として認知症介護などの介護予防に効果があり、より一層の高齢者の生活の充実を図られると推測される。

以上のことから、高齢者を介護する介護福祉士は高齢者に関する知識だけでなく、子どもに関する知識も重要であると考えられ、介護福祉士教育の一方法として幼児教育（以下、保育教育という）の導入が、今後の介護福祉士の質の充実を図ると推測される。

そこで、ここでは統合ケアの視点から介護福祉士教育と保育士教育との関連性について捉え、介護の場面で保育教育をどの様に活用されているのか、S市に在住する保育士有資格者の介護福祉士に対して聞き取り調査を実施した。結果は、レクリエーションを行う際に保育の基礎技能を活用しており、介護を行う際に役立っていることがわかった。

このようなことを踏まえると、保育教育は介護福祉教育に繋がるものがあるといえるが、保育の基礎技能を実施する際において、専門科目からの知識や倫理観も影響しているといえ各々の科目についても検討することが今後の課題といえる。

### キーワード

介護福祉教育、保育教育、統合ケア、認知症介護

## I. 研究の背景

介護福祉士は、1988年「社会福祉士及び介護福祉士法」により高齢社会を介護の担う専門職として

制度化された。この制度は、①福祉従者に明確な資格制度がない。②今後、高齢化社会が大きな社会問題になる。③ノーマライゼーションとインテグレーションの理念の浸透化（矢野1996：20）が挙げられ、この3点によって、“介護福祉士”資格制度が開始されたことになる。

それを機に介護福祉士の養成が開始される。介護福祉士養成施設校の数は初年度の1988年4月1日においては25校だったのに対し、2005年4月1日現在では、402校479学科と急激に増加している。

2005年3月において介護福祉士の総数は、図1により、2年課程または4年課程の養成校が168,027名、社会福祉系大学卒業後1年課程の養成校1,529名、福祉専攻科は13,884名、国家試験合格者は244,133名であり総数427,573名に達する。この数は年々増加すると考えられ、今後の課題は、介護福祉士の質にあるといわれている。養成施設は、質の高い教育を行う上で「在宅介護・地域介護」「介護の共通言語として医学知識」の重要性が指摘され、2000年には介護福祉士の養成カリキュラムが改正された。しかし、江草は、カリキュラムが改正されても、①認知症介護、②リハビリテーション介護、③ターミナルケア、④医療との連携の4つ課題があると提言している。この中でも、特に後期高齢者の75.0%は認知症である（江草2005：5）ことから、認知症介護などの介護予防が、今後の介護福祉士の質のキーワードといえる。

介護福祉士の専門性は、介護福祉士会倫理綱領の内容から「利用者本位」、「自立支援」、「専門的サービスの提供」、「プライバシーの保護」、「利用者ニーズの代弁」、「地域福祉の推進」、「後継者の育成」が挙げられており、これを基に介護をする上での視点が集結されていると考えられる。また、G. ミラーソン（G. Millerson）が専門職として、①専門職は、体系化された専門的理論とそれに基づいた専門的技術をもっていること。②その技術を得るためには、訓練と教育が必要である。③専門職になるためには、一定のテストに合格しなければならない。④専門職としての行動綱領を守ることによって統一性が維持されている。⑤サービスはすべての公共の福祉に連なっていなければならない。⑥その専門職の組織化がはかられていることが必要である。と6つの基本的な共通属性を定義している。また、吉澤は「専門職とは専門知識（理論）、専門技術、それを駆使する人間観と対応態度が含まれる」と挙

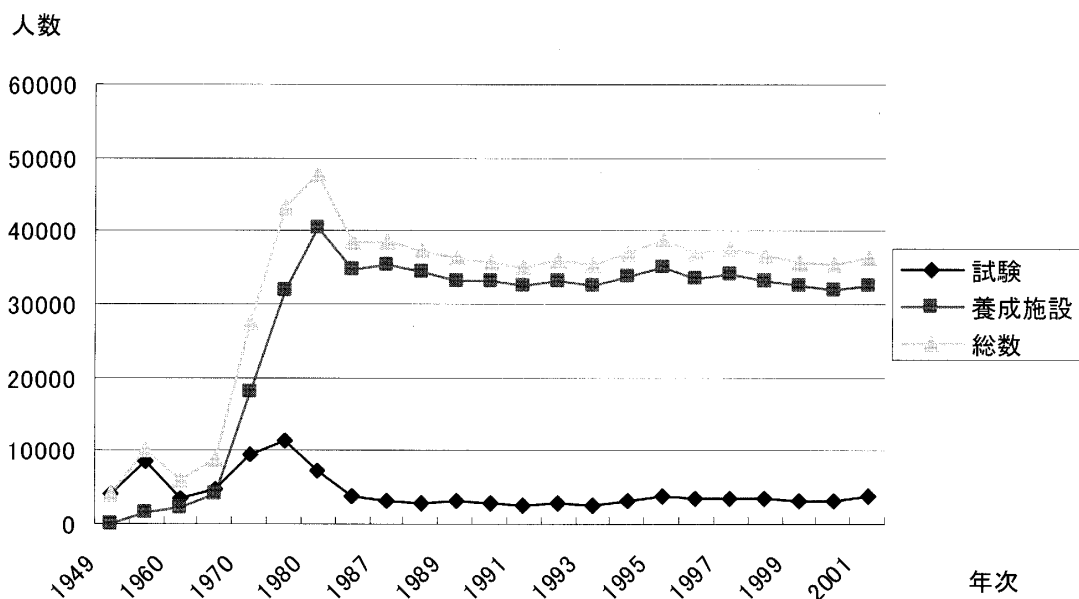


図1 介護福祉士登録数

げている（吉澤1994：159）このことから、その専門性の共通は技術、知識、態度であると考えられる。

そして、1987年に公布された「社会福祉士法及び介護福祉士法」のなかで、介護福祉士とは「介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき入浴、排泄、食事その他の介護をいい、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者」と規定した。この法は、「介護＝ケアワークを初めて明白に位置づけた意味は大きい」といわれている（小笠原1988：30）。

三友雅夫は、介護福祉士の専門性を構成する「知識・技術の体系」を介護職の認識を通して機能的に検証する作業を行い、行動因子に関しては①直接処遇原理、②対人接触、③レク・リハ援助、④状況対応、⑤医学的対応、⑥便法処理、⑦症状変化対応、⑧障害対処という8つの因子を抽出し、知識因子に関しては①家政系の基礎、②制度事業、③障害・リハ援助、④介護原理・原則、⑤医学・生理学系、⑥福祉思想・理念、⑦法・施策体系、⑧アセスメントという8つの因子を抽出し、専門性の科学的検証を試みている（三友1993：223-263）。

以上のことをふまえると、介護福祉士の現状は、公的介護保険制度や2007年から総人口の減少、FTA（自由貿易協定）問題などから、介護福祉士教育も転換期を迎えていると考えられる。

## II. 研究目的

厚生労働省は、現在の介護福祉士の養成課程全てにおいて、保育教育を同時に導入するという方針はない。かろうじて、介護福祉士養成施設のなかに、保育士資格を有する者が介護福祉士養成施設において1年課程に入学しその資格を得るというシステムはある。また、統合ケアの実践の効果報告はあるが、保育士教育を受けた介護福祉士が介護の場面において、利用者の生活への影響についての研究は見当たらない。

よって、ここでは介護福祉教育において保育教育との関連性を、S市で勤務する保育士有資格者の介護福祉士に聞き取り調査を行い、保育士教育の視点の有用性を捉えることを目的とする。

## III. 研究方法

### 1. 調査対象と調査方法

S市の高齢者施設で勤務するN学校卒業生〈卒業1年目 1名、卒業2年目 4名〉保育士を有している5名の介護福祉士に対して、集団面接法による聞き取り調査を行った。

方法として、質問による自計式集合調査を行い、質問紙は介護の専門性について行った。

### 2. 調査日

2005年5月28日（土）

### 3. 質問紙構成

- (1) 実際に介護して必要と思われること（介護全般）。
- (2) 保育士の専門性がどのような援助のとき（場面）に必要と思われたか。
- (3) そのように思ったときの状況について（利用者の状況、介護者の状況）

- (4) 介護福祉の専門性がどのような援助のとき（場面）に必要と思われたか。
- (5) そのように思ったときの状況について（利用者の状況，介護者の状況）
- (6) 自由記述

#### 4. 分析方法

質問項目においては，KJ 法に則り介護において保育と介護福祉の場面とに分類し 2 項目に大別した。

- (1) 介護福祉場面での保育の有用性
  - ① レクリエーション場面
  - ② コミュニケーション場面
- (2) 介護福祉場面での介護福祉の有用性
  - ① 技術場面
  - ② コミュニケーション場面

### IV. 結果及び考察

#### 1. 介護福祉場面での保育の活用

図 2 より，高齢者を介護する場面において保育教育から活用できていることは，利用者の日常生活を快適なものにするための環境づくりに活用していることが解った。なかでも，レクリエーション時に活用され“手遊び”“歌”“製作”“ピアノ”という保育の基礎技術が率先して活用されている。しかし，そのためには対利用者との関係には，コミュニケーション（目線の位置や態度，姿勢）が介在しており，技術的な学習の他に専門職としての倫理観を学習する他の教科も重要だといえる。また，コミュニケーションを図る上で“声の抑揚”もよりよい人間関係を築く上でも重要視できる。

#### 2. 介護福祉場面での介護福祉の活用

図 3 より，図 2 の保育の活用と同様に日常生活に対して環境が有意に作用しており，高齢者の生活背景を観察しアセスメントをすることにより，介護技術という手段に到っていることが推測される。また，これに対してもコミュニケーションが重要であることが考えられる。

よって，介護福祉場面でも保育の基礎技能や専門科目は，十分に重要であることが伺え，コミュニケーション場面では，利用者との同じ目線で話が出来ることは，対等の立場であるということの再確認と，お互いの信頼関係を育む上で大切なことであり，今後のよりよいケアを目指す上で重要であると考えられる。また，このような保育士教育の学習が必要であると感じた時の介護の場面では，その利用者が認知症高齢者であったことから，江草が提言している今後の「認知症介護の方法」（江草：再掲）にも繋がると考えられる。

介護福祉教育において，植木は指定科目に児童福祉論の導入の必要性を論じている（植木1998）が，厚生労働省は介護福祉士の養成課程において，保育教育を導入するという方針は現時点ではない。かろうじて，介護福祉士教育のなかに保育士資格を有する者が，介護福祉士養成施設の 1 年課程（専攻科福祉専攻）に入学しその資格を得るというシステムがある。

### 3. 統合ケアとの関連性

介護福祉の基本姿勢は、知識、技術、態度の三領域を踏まえて生活上さまざまな障害を克服していく援助の領域（一番ヶ瀬2003：）という概念から生活支援に視点がある。また、広井は生活を3段階に分け論じている。第1段階は、『疾病』から『障害』へのパラダイムの転換をしめし、医療モデルから生活モデルへの変換をいい、具体的には種々の介護サービスの充実を挙げている。第2段階は高齢者の社会的役割の発揮や高齢者同士の相互作用を通じた支援としてのケアの姿を述べている。例えば、詩吟や着物の着付け、味噌づくり、漬物のつけ方などが挙げられる。第3段階では複数世代を含む交流が挙げられる。ここでは高齢者ケアをコミュニティという環境という場で他世代交流を図る空間をつくることにより、高齢者のケアが現状より充実したものになるという考え方である（広井2000：121-124）。

このことから統合ケアは、この第2段階から第3段階にあたると考えられる。高度経済成長以前は、我国においても拡大家族が多く世代間の交流は頻繁にあり、それぞれが担う役割は、家族の一員としての役割や人間形成上重要だったと考えられる。しかし、今日の家族形成は、核家族が多く社会的背景として高度経済成長のなかで取り残された高齢者や子どもの問題が新たに生じている。

この解決策として、高度経済成長以前の生活（拡大家族）に戻そうとしても困難だといえ、現在の生活スタイルを変えずに生活を継続していく為には、地域全体で高齢者の生活を支えるしか他に手段はないと考えられる。地域社会で他世代が共に支え合い生活を営むことが、今後の社会に必要なと思われる。

高齢者と子どもにおける統合ケアの実践は、熊本県にある介護老人福祉施設、天寿園での「おもちゃ図書館」や東京都の養護老人ホーム「江東園」などがあり、年々統合ケアを行う施設は増加の傾

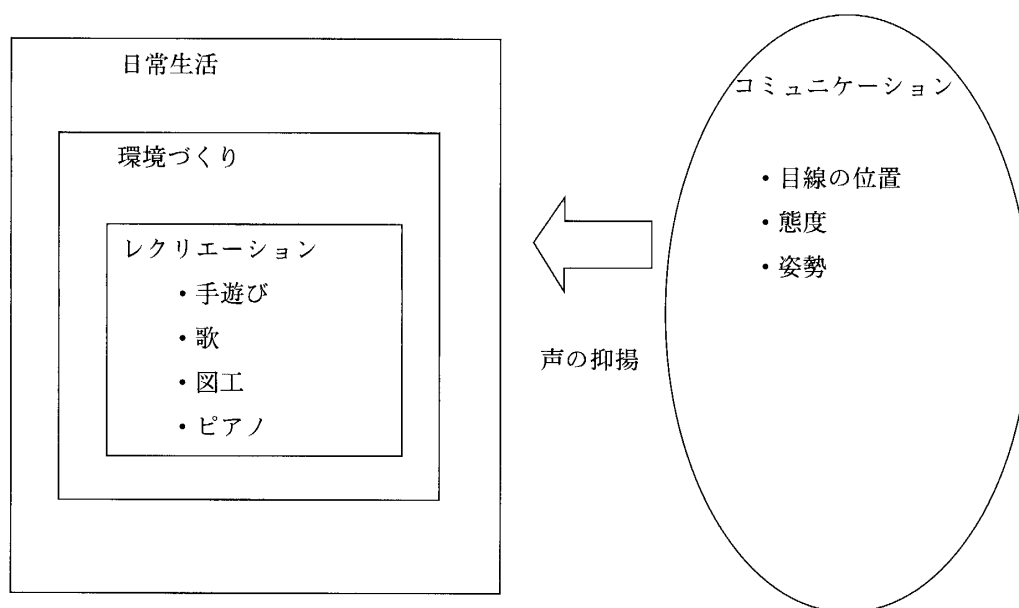


図2 保育の有用性

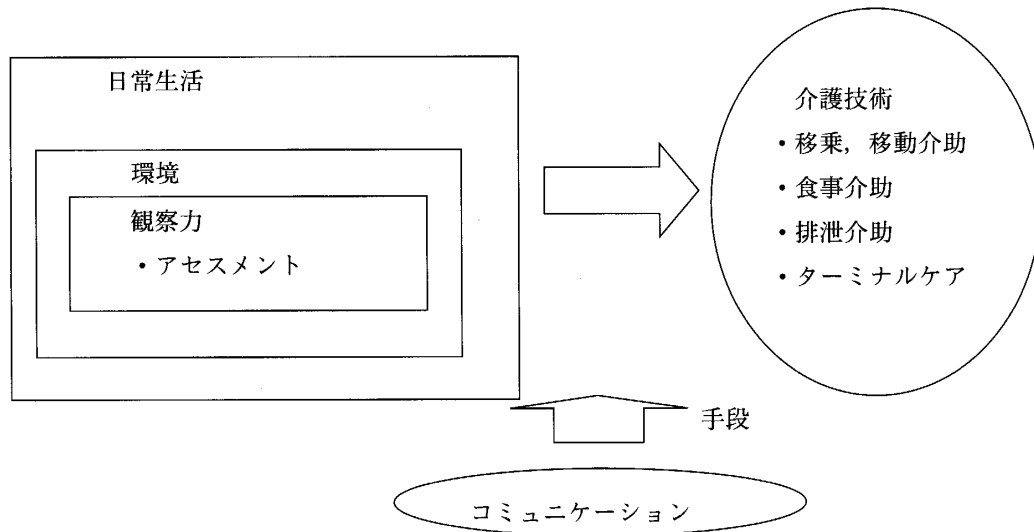


図3 介護福祉の有用性

向にある（広井2000）。統合ケアの効果は、高齢者には子どもに文化の継承やしつけを行うという過程で、次第に心を開き自発性がみられ、人の役に立つことで自信や生きがいを見出すという変化があり、子どもには高齢者の生活を理解する上で重要な経験をすること（高齢者を気遣う言動、自発的なお手伝い、褒められるうれしさなど）により、日々生活の活性化や快適さに繋がっていると報告されている（広井2000）。

また、熊本県天寿園の施設長は保育士の経験をもつ介護職員を採用し、更に統合ケアの充実を図っている。以上のようなことを踏まえると、統合ケアは、今後の介護福祉のあり方を示唆しているといえ、それを担う介護福祉士は、保育士の知識や技術を兼ね備えた人物がよりよい介護を提供できるものと仮定できる。

## V. 結 論

保育と介護福祉を結びつけるものとして、福祉現場では統合ケアが実施されているが教育カリキュラムへ繋ぐ研究はなされていない。

介護福祉は実践科学といわれる事から、介護福祉士教育は単なるテクニックを教授するだけであってはならない。従来の生活様式に近い他世代間交流を主とした統合ケアに注目し、介護福祉教育と保育士教育の融合によって、今後の介護福祉士の質の向上に繋がり、実践から理論への繰り返しを行うことが重要である。

よって、今後の介護福祉士教育には、現代の少子高齢社会という社会的背景から世代間交流が活発になることが考えられ、介護福祉の方向として統合ケアが主流になると仮定すると、介護福祉士養成教育においても保育士養成教育の科目が必要不可欠になると推測される。

ここでは、各々の保育士養成各科目については言及していないが、保育基礎技能が、早急に介護福祉の現場にその必要性を求められると考えられる。

## 引用文献

- 矢野祐史（1996）「これからの福祉社会を支える『介護福祉士』—『介護福祉士』育成の視点から—」『介護福祉教育』2（1），20.
- 江草安彦（2005）「転換期を迎えた介護福祉士養成教育の課題と展望—介護福祉士養成の到達点と課題」『介護福祉教育』11（1），5.
- 田中安平（2004）「介護教育の本質(1)—生活支援という視座のもとで—」『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』（鹿児島国際大学）23（1），1-18.
- 吉澤英子（1994）「社会福祉の専門性と現任教育をめぐる課題」『社会福祉研究』60，159.
- 小笠原祐次（1998）「社会福祉マンパワー政策の課題」仲村優一・秋山智久編『福祉マンパワー』中央法規出版，30.
- 植木信一（1998）「介護福祉教育の為の児童福祉論」『介護福祉教育』，42-44.

## 参考文献

- 一番ヶ瀬康子（2003）『介護福祉学の探求』有斐閣.
- 広井良典編著（2000）『『老人と子ども』総合ケア—新しい高齢者ケアの姿をもとめて—』，中央法規出版.
- 広井良典（2000）『ケア学—越境するケアへ—』医学書院.
- 三友雅夫（1993）「高齢者ケアの総合戦略」三友雅夫・京極高宣編『高齢者のケアシステム』中央法規出版.